

氏名：野中 菜々子

留学先：清華大学（中華人民共和国・北京）

この度は「埼玉発世界行き」の奨学生として多大なるご支援いただきましたこと、深く感謝申し上げます。お陰様で留学することが叶い、貴重な経験を通して多くのことを学ぶことができました。こちらのレポートで私が埼玉親善大使として現地で行った活動、および留学を通して学んだことについて報告させていただきます。

1. 北京について

私は日本の大学院のダブルディグリー制度を活用し、中国・北京にある清華大学に留学しました。北京は中国の首都で、政治の中心地です。北京といえば、ニュースでよく映る天安門広場は見覚えのある方が多いのではないのでしょうか。天安門広場は東西 500 m、南北 800 m にも及び、広さ 40 万 m² 以上を誇る世界最大の広場とも言われています。そして、天安門広場前は片道 5 車線の大きな道路が通っており、多くの車や電動バイクが道路を行き交っています。天安門広場に佇み辺りを見渡すと、広大なスケールと人の多さに圧倒されます。



（引用：東京都立図書館＞世界の国と地域を知る、Google Map）



→ 中華人民共和国の国旗、地図



→ 天安門広場

私が留学した清華大学は、天安門広場がある北京の中心地からは北に少し離れた場所にあります。中心地から離れても交通量は依然として多く、たくさんの人が行き交っています。主な交通手段としては、自転車・タクシー・電車・バスがあります。路上には多くのシェアリング自転車が駐輪されています。シェアリング自転車には QR コードが割り当てられており、スマホで QR コードをスキャンすることで、任意の場所から目的地まで利用することができます。そして目的地に着いたら、駐輪可能なエリアであれば、どこでも駐輪することができます。ただし、帰る頃には周囲にシェアリング自転車が見当たらず利用できないということもしばしばあります。そのような場合はスマホのアプリを利用すればすぐにタクシーを呼ぶことができます。個人所有の車両でタクシー事業を営んでいる人も多く、日本と比べ

るとタクシーの乗車賃は非常に安く 1/3～1/2 ほどの料金です。電車やバスもスマホの決済アプリ Alipay を使って QR コードを機械にかざせばすぐに乗車することができます。

お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、中国はあらゆる決済システムがスマホに集約されているキャッシュレス社会です。自転車・タクシー・電車・バス全てスマホ 1 つで利用することができます。別の言い方をすれば、現金を使う場面はほとんどありません。私も 1 年以上中国に滞在して、実際に現金を使用したのは、銀行口座開設時のデポジット支払いのみです。日本でも Alipay や WeChat Pay 利用可能の表示を見かけることがあると思いますが、中国ではこれらのスマホ決済システムが広く普及しています。WeChat Pay は SNS アプリ WeChat に付帯した決済システムで、中国版 LINE ともいえる WeChat は決済だけでなく、様々な施設の予約、レストランでの注文も行えるなど、中国で生活する上で必要不可欠で最も使用するアプリと言っても過言ではないでしょう。

北京の天候は 1 年を通して乾燥しています。夏は東京よりも若干気温が低く、また乾燥しているため、比較的過ごしやすいです。一方で、冬は -15 度を下回るほど冷え込む日もあり、池が凍るほどの寒さです。北京の世界文化遺産の 1 つである頤和園には大きな人工湖があり、冬になると凍った湖の上をそりで滑りながら中国四大名園とも称される庭園を一望することができます。



→ 頤和園



→ 万里の長城

清王朝の皇族庭園である頤和園、約 2200 年の歴史がある万里の長城、明・清王朝の皇宮である紫禁城を含め、7 つの世界文化遺産が北京にあります。北京は歴史ロマン溢れる場所であると同時に政治の中心地でもあり、街には多くの人が行き交い、交通網の発達やキャッシュレス化など急速な発展を遂げています。このように北京は長い歴史と都市としての賑わいを併せ持つ非常に魅力的な場所です。

2. 学校生活

私が留学した清華大学は中国の中で非常に有名な大学です。中国の方で清華大学を知らない方はいないほどです。「THE 世界大学ランキング 2024」でアジア 1 位になり、中国全土そして世界中から多くの優秀な学生が集まっています。また世界的な米経済誌 *Forbes* が公表した「世界で最も美しい 14 の大学キャンパス」で唯一アジアからランクインしており、北京の観光地の 1 つとして多くの観光客が訪れています。



→ 清華大学（北京市海淀区）、旧校門・大礼堂・清華学堂・亭・蓮池・牡丹園

学校の敷地は非常に広く、講義棟・研究棟・図書館・食堂・スーパー・喫茶店・理髪店・郵便局・銀行・病院・学生と職員の寮・スタジアム・プール・スケートリンク・各種スポーツの競技場・庭園などが全て学校の敷地内にあり、学校の外に出なくとも十分生活できるようになっています。広い学内の移動には基本的に自転車を利用します。また、自身の電動バイクで移動している学生もいます。授業と授業の合間には多くの学生が移動するため、幅が 10 m 以上ある大通りも自転車で埋め尽くされ、教室に辿り着くのも一苦労です。

食堂は 10 以上あり、各食堂の学食は非常に美味しく、上海・四川・広東など各地方の料理を楽しむことができます。日本料理や韓国料理を提供している食堂もあります。さらに値段も安く、北京ダック・麻婆豆腐・ご飯で合わせて約 400 円です。また、中国の方は火鍋が好きで、学内にも火鍋専門レストランがあります。基本的には学内で朝・昼・夜の食事を取りますが、休日など時間があるときには学外のレストランで食事をします、学外のレストランでの食事代は日本と同じか少し安いくらいです。日本で多く見られるイタリア料理店は

北京では少なく、中華料理店以外だと韓国料理店が多い印象です。韓国料理店ほどは多くないですが、日本料理店も学校の近くにいくつかあり、すき焼き・寿司・うどんなどが日本食として定着していました。日本よりもデリバリーサービスを安く利用することができ、みんなでお前を注文して研究室や教室で食事をすることもよくありました。



→ 学食（上海料理 約 400 円）



→ 学内の火鍋専門レストラン

次に学生の 1 日についてご紹介します。授業は朝 8 時から夜 21 時までであり、理系の修士学生の場合は授業の合間に研究をしています。食堂が空いている時間は、朝 6:30～9:00、昼 11:00～13:00、夜 17:00～19:00 と決まっており、学生は食堂で夜ご飯を食べた後、再び授業に参加したり研究室に戻って実験をしたりしています。ほとんどの学生は夜 21～22 時まで研究室で作業をしています。23 時まで研究室に残っていることも珍しくなく、24 時に給湯が止まるため、シャワーに間に合うくらいの時間に学内の寮に帰る学生も多いです。私の想像以上に中国の学生は学業に熱心です。

また、もう 1 つ印象に残った点は、研究室や学科の学生同士の仲が非常に良いということです。多くの学生が学内の寮で共に生活を送り（学部生は 4 人部屋、修士学生は 3 人部屋、博士学生は 2 人部屋）、昼・夜ご飯は研究室や学科の仲間で食堂に行くことが多く、多くの時間を共に過ごしていることで学生同士の仲が深まります。ダンス大会やマラソン大会など学内のイベントが豊富で、学科の仲間同士でイベントに参加することが多いです。特に、中国渡航後に初めて参加したイベントであるダンス大会は私にとって非常に思い出深いです。渡航後の隔離期間中も学科の仲間と WeChat を利用して連絡を取り、ダンスの練習動画を送ってもらいながら個人練習を行い、隔離解除後 5 日目にダンス大会本番を迎えました。学科の仲間と一緒にステージでダンスを踊り、イベント終了後は学外の焼肉屋さんでお疲れ様会をして、まだ知り合って 1 週間も経たないなか非常に温かく迎え入れてくれたことにとても感謝しています。



→ 材料学院



→ ダンス大会

私は国際学生の寮に住んでいたため、マレーシア・インドネシア・フランスなど、中国出身の学生以外にも多くの方々と友達になることができました。留学生同士で交流する際、授業や研究で議論する際には基本的に英語を使用していました。一方で、食堂やスーパーなどを利用する際、研究室の仲間と日常的な会話をする際には中国語を話していました。留学当初はまだ中国語を勉強して半年ほどで、日常生活において言語の面で大変苦労していました。しかし、中国語があまり話せない私に対しても、周りの方々は時間をかけて会話をしてくれました。毎日の交流を通して私の中国語も上達し、研究室の仲間やクラスメイトをはじめとして、寮母さん、研究棟の門番さん、食堂の調理員さんと仲良くなることができとても嬉しく思いました。

3. 埼玉親善大使として

中国では日本に関心を持っている方が非常に多く、日本人の友達や電話先の家族と日本語で話していると「日本人ですか」と話しかけられることがよくあります。日本語が話せる方も多く、日本語で話しかけられることもあります。清華大学では第二外国語として最も人気なのが日本語で、受講するための抽選倍率は2～4倍であると聞いたことがあります。また、日本のアニメが好きな人が多く、日本語音声・中国語字幕でアニメを視聴しているのをよく見かけます。日本ブランドに対する信頼性が高く、日本の食品や洗剤等の生活用品が日本語パッケージのまま売られていることもよくあります。このように日常で日本語に触れる機会が多いためでしょうか、日本に留学に行ったことがなくてもかなり流暢に日本語が話せる方に何人も出会いました。また自分は日本語が話せないが自分の知り合いや家族が日本で仕事をしたり留学したりしていると教えてくれたり、旅行で日本に行ったときの写真を見せてくれたり、日本に関心を持っていることを積極的に伝えてくれる方が多くとても嬉しく思いました。

このように多くの方が日本に関心を持ってくださっていますが、一方で埼玉を知っているという方にはなかなか会うことはできませんでした。埼玉についてもっと多くの方々

に知ってほしいという思いから、日々の会話の中で積極的に埼玉をPRできるように心がけていました。例えば、埼玉県公式観光サイト「ちょこたび埼玉」の中国語版リンクを紹介したり、埼玉県のお菓子を日本から家族に郵送してもらって、埼玉県のことを紹介しながらお菓子をプレゼントしたりしました。また、埼玉についてPRするプレゼンを中国語で行いました。埼玉にはたくさんの名所があることを紹介したところ、今度日本に行くときには埼玉に行ってみたいという声をいただきとても嬉しく思いました。



→ 埼玉 PR プレゼンの様子

→ 埼玉の名所の紹介

4. 最後に

留学する前の私にとって中国は近いようで遠い存在でした。日本には多くの中国の方がいらっしゃいますし、中国製の商品や、日本風にアレンジされた中華料理など、日常生活の中で中国を垣間見る場面は非常に多いと思います。一方で、実際の中国についてはあまりよく知らずに、中国の方々は日本に対してあまり良いイメージを持っていないのではないかと心配していました。しかし、実際に中国を訪れて現地の方々とお話ししていると、普段から日本語や日本の製品、アニメに慣れ親しんでおり、日本に対してプラスのイメージで興味を持ってくださっている方が非常に多いと気が付きました。中国語がわからない私に対しても、なんとか会話しようと筆談やスマートフォンの翻訳機能を活用して時間をかけて交流してくださり、とても親切だと感じました。一度仲良くなると家族のように温かく接して迎え入れてくれる、とても情に厚い方が多い印象を受けました。一方で日本では外国人に対して少し冷たい行動をしてしまっている場合もあるのではないかと、自分自身の行動を振り返って感じました。日本語が通じないと一歩下がってしまい、あまり自分から積極的に交流しようとはしなかった自分の行動を反省しました。また、今回の留学を通して、留学生という立場の難しさや大変さを身をもって感じたことから、帰国後は留学生に寄り添いサポートできることはないか常に考え自分から積極的に交流するようになりました。

世界情勢は日々移り変わっていきます。これまでの出来事やイメージに捉われず、相手と直に対話し、相手をよく知ろうという歩み寄りの気持ちがとても大事であるということ

今回の留学を通して実感しました。埼玉は西川口駅周辺など多くの中国人が住み、本場の中国が垣間見える場所が多くあります。日本で最も在留外国人が多い街としても知られており、国際交流のきっかけとなる素敵な場所だと考えています。中国の方がプラスのイメージで日本に対して興味を持ってくれているように、中国や諸外国の方々ともっと交流を深めたいと思う日本の方が増えてほしいと願っています。日本人1人1人が思いやりを持って外国人と接することで、日本での滞在が良い思い出として心に刻まれ、日本を訪れる外国人や日本で暮らしている外国人が母国に戻った後も諸外国と日本との友好の輪が広がり続けると信じています。

私は2024年1月に清華大学材料学院修士課程を早期修了しました。中国滞在期間約1年を含めた1年5ヶ月の留学を最後までやり遂げることができました。コロナの影響で入学後もしばらく渡航できず、ビザが解禁され渡航が叶った後も、飛行機が減便されている影響で渡航費が片道30万円と非常に高く、空港到着後にはすぐに21日間の隔離生活が始まり自由に外出できないなど、これまで多くの困難がありました。今回大変ありがたいことに奨学金をいただいたおかげで、コロナ禍という大変な時期にもかかわらず留学することができ、非常に貴重な経験と学びを得ることができました。また、埼玉親善大使に任命いただいたことによって、日本と中国の関係性について自分自身より一層深く考える機会となりました。この度は奨学生として多大なるご支援賜りましたこと、改めて深く感謝申し上げます。この貴重な留学経験と学びを大切にして、自分の専門分野で日本や埼玉と中国の間の架け橋になり、世界のエネルギー課題に対して国際的にリーダーシップを発揮できる人になれるよう日々邁進していきたいと思っています。この度は誠にありがとうございました。



→ 修士論文発表会



→ 清華大学修士課程修了